# 日本演劇学会2016年全国大会タイムスケジュール

7月1日（日）前夜祭

| | |
|---|---|
| 18:00– | パフォーマンス『祭礼2016』Plant M ＋takayasu Kagura<br>①18:00～（開場17:30）　②20:30～（開場20:00）<br>於：イロリムラ・プチホール |

7月2日（土） 大会1日目

| | 法経講義棟 | | |
|---|---|---|---|
| 9:30 – 10:00 | 受付 | | |
| | 法経講義棟 3階 経5番講義室 | | |
| 10:00 – 12:00 | オープニング・セッション<br>開会挨拶<br>趣旨説明：永田 靖（大阪大学）<br>「ポスト・グローバリゼーション時代の日本演劇」<br>基調講演①：Peter Eckersall, New York City University（通訳：日高真帆）<br>Post-global theatre in Japan and the double critique of the contemporary moment<br>基調講演②：林 于竝（国立臺北藝術大学）<br>国境を超える演劇：桜井大造のテント芝居 | | |
| 12:00– 13:00 | 昼食 | | |
| | 法経講義棟2階 法3番講義室 | 法経講義棟2階 経4番講義室 | 法経講義棟1階 経1番講義室 |
| | 研究発表1 世界演劇との対話<br>司会（山下 純照） | 研究発表2 近代日本演劇の諸相<br>司会（天野 文雄） | パネルⅠ |
| 13:00– 13:40 | ディアローグ：Peter Eckersal＆林于竝を囲んで | 戦時下の能楽<br>―〈忠霊〉〈皇軍艦〉を中心に<br>佐藤 和道（名古屋高等学校） | 女性芸能者の近代<br>――その特殊性と普遍性――<br>土田 牧子（共立女子大学）<br>澤井 万七美（沖縄工業高等専門学校）<br>横田 洋（大阪大学）<br>中尾 薫（大阪大学・司会） |
| 13:40– 14:20 | Verbatim Theatreと倫理<br>―英国のコミュニティ劇団ロンドンバブルの実践を中心に―<br>佐々木 英子（ロンドン大学 修了） | ある学生エキストラからみた築地小劇場<br>――新資料「水盛源一郎『小説 築地小劇場―<br>―築地の人々――』」をもとに――<br>中野 正昭（明治大学） | |
| 14:20– 15:00 | 笑いの肉体化<br>―スペイン黄金世紀演劇の道化芸の系譜―<br>田尻 陽一（関西外国語大学） | バーナード・ショーと浅草オペラ<br>大浦 龍一（大阪芸術大学） | |
| 15:00– 15:30 | ＜休憩＞ | ＜休憩＞ | ＜休憩＞ |
| | 研究発表3 現代日本演劇の諸相<br>司会（井上 優） | 研究発表4 演劇の教育と公共性<br>司会（藤崎 周平） | パネルⅡ |
| 15:30– 16:10 | 岸田理生作『凧』（1979）考察<br>―泉鏡花『紅玉』『山吹』の引用を中心に―<br>岡田 蕗子（大阪大学） | 大学での演劇教育におけるジェンダーをどう考えるか<br>－先行研究分析及び課題への取り組み－<br>松村 悠実子（玉川大学） | 聞き書きとデジタル・アーカイヴ：日本演劇研究をより開かれたものにするために<br>神山 彰（明治大学）<br>児玉 竜一（早稲田大学）<br>日比野 啓（成蹊大学）<br>小田中 章浩（大阪市立大学・司会） |
| 16:10– 16:50 | 知的障害者施設あざみ・もみじ寮における演劇実践―応用演劇の一事例として―<br>須川 渡（大阪大学） | 演劇教育研究のためのオートエスノグラフィーについて<br>花家 彩子（東京学芸大学 大学院） | |
| 16:50– 17:30 | 「ハイメン」演出から蜷川幸雄の特異性を考える<br>―日英『お気に召すまま』上演分析を中心に―<br>菊池 あずさ（京都府立大学） | 戦後日本公共劇場における演劇人の実践<br>――「創造」と「公共性」の関係はいかに問われてきたか<br>山口 真由（東京大学大学院単位取得退学） | |
| | | | |
| 18:00– 19:30 | 懇親会（レストラン「宙」） | | |

7月3日（日）大会2日目

## 法経講義棟

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9:30–10:00 | 受付 | | |
| | 法経講義棟2階　法3番講義室 | 法経講義棟2階　経4番講義室 | 法経講義棟1階　経1番講義室 |
| | 研究発表5　舞踏と現代演劇<br>司会（小菅　隼人） | 研究発表6　越境するミュージカル<br>司会（市川　　明） | 研究発表7　文化交流としての日本演劇<br>司会（井上　理恵） |
| 10:00–10:40 | 大野一雄の中のマイム的身体<br>―エティエンヌ・ドゥクルー、ジャン＝ルイ・バロー、及川廣信を巡る身振りの循環<br>宮川麻理子（東京大学　大学院） | 日本とヴィーンのミュージカルにおける〈戦略的互恵関係〉<br>――市場かつ発信地？<br>田中　里奈（明治大学　大学院） | 一九世紀末から二十世紀初頭の西洋における女優貞奴と花子の上演の受容について<br>―ゴードン・クレイグの評論を中心に―<br>高　洋（シンガポール国立大学　大学院） |
| 10:40–11:20 | 土方巽の暗黒舞踏と「アルトーのスリッパ」<br>李裁仁（東京大学　大学院） | 1930年代宝塚少女歌劇のオペレッタ作品に見られるアジア表象<br>―堀正旗『モオン・ブルウメン』『黎明』を例に―<br>松本　俊樹（大阪大学　大学院） | エドワード・ゴードン・クレイグの文楽関係資料および近松受容<br>山口　庸子（名古屋大学） |
| 11:20–12:00 | ノヴァリナと能<br>井上　由里子（立命館大学） | 戦時下宝塚の帰朝公演における「国家」の表象<br>――『我等の旅行記』（1939）における「興亜日本」――<br>垣沼　絢子（大阪大学　大学院） | 日本の中の世界演劇：『漂流奇譚西洋劇』における、ヴァーノン一座による劇中劇とその演技について<br>堤　春恵（インディアナ大学大学院博士課程修了） |
| 12:00–13:10 | 昼食<br>（　理事会　於:基礎工学国際棟1階セミナー室　） | | |

## Σシグマホール（基礎工学国際棟）

| | |
|---|---|
| 13:10–14:10 | 総会 |
| 14:10–15:10 | クロージング・セッション<br>基調講演③　Patrice Pavis, University of Kent　（通訳：井上　由里子）<br>Globalization in a few recent Japanese productions |
| | ＜休憩＞ |
| 15:20–17:20 | ラウンド・テーブル<br>報告①　森下　隆（慶應義塾大学アート・センター）<br>舞踏の海外での需要の歴史と現状<br>―2016年の視点と考察<br>報告②　細井　尚子（立教大学）<br>ローカライズド文化の作られ方<br>―『台湾宝塚』と呼ばれた芸霞歌舞団を例に―<br>Patrice　Pavis, 森下　隆、細井　尚子、山下　純照、小菅　隼人、永田　靖 |
| 17:20– | 閉会挨拶 |

※オープニング・セッション、及びクロージング・セッションの一部は「アジア近現代演劇の動態論的国際共同研究」（基盤研究(B) 26284019）の助成を受けたものです。